

授業科目名	生体反応学 (Biological Responses)		
対象学年	医学科 2 年生	単位	12単位
科目責任者	さかぐち たけまさ 坂口 剛正	所属	ウイルス学 (内線 5157 )
		メール	tsaka@hiroshima-u.ac.jp
	かんの まさもと 菅野 雅元	所属	免疫学 (内線 5175 )
		メール	mkanno@hiroshima-u.ac.jp
	さかい のりお 酒井 規雄	所属	神経薬理学 (内線 5140 )
		メール	nsakai@hiroshima-u.ac.jp
授業方法	講義形式であり、各コースでプリントを準備する予定（なお、ディスカッション・ディベート・学生の発表を含む可能性あり）。また、実験を中心とした実習、演習を行う。		
概要	解剖学で生体の構造を習得し、組織細胞機能学（生化学＋生理学）で生体の基礎を習得した後、この「生体反応学」では細菌学、ウイルス学、薬理学、免疫学、寄生虫学を習得することにより、「生体がどのような反応をするか？」を知る。この後、「病理学」においてシステムが破綻した病態を学び、さらに臨床系授業につなげる。		
到達目標	各ユニットのシラバスを参照のこと		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
評価項目	到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用） 少なくとも「コアカリキュラム程度の理解」「4年生のCBTをパスするレベル」を満たすことを評価の可否レベルとしている。		
評価法	「生体反応学」の成績は、薬理学・微生物学（細菌、ウイルス）・免疫学（免疫、寄生虫）の各コース素点の平均点で評価するが、1科目でも不合格があれば、「生体反応学・9単位」としては不合格になり、次年度に「生体反応学」全てを再履修することになる。		
履修上の注意 アドバイス	生体反応学（細菌学、ウイルス学、薬理学、免疫学、寄生虫学）の膨大な知識を、教科書・参考書を通して一人で理解することは非常に困難である。講義では要点をまとめて話すので出席されたい。系統的な講義のため、一度欠席すると次回の講義の理解は困難である。講義を理解するために予習・復習をおこなってほしい。研究の進歩により、その知識は日進月歩で変化しているので、なるべく新しい教科書・参考書を使ってほしい。積極的学習態度を心がけること。質問は大歓迎である。また、各研究室を気軽に訪問し、研究を経験することを望む。		
推奨参考書	各ユニットのシラバスを参照のこと		